

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月13日(木)

### 《一人で過ごすこと、共に過ごすこと》

教会は、時々誰もいないところに行き、一人で静かな時間を持つように勧めていますね。中には、一人であるのが好きだからいつも一人で過ごす人もいます。しかし、それはふさわしいことではありません。では、どのようなことがふさわしいことなのでしょう。人間が一人である目的はただ一つです。それは“人と共に過ごすため”です。人と共に過ごすために一人の時間を持つのは、とても健康的なことです。ですから、時々黙想会などで一人の時間を持つことは本当に大切なことです。逆に言えば、一人であることができない人は、人と一緒にいることもできません。一人の時間をとろうとして、まじめに一人であることができれば、共にいることがどのくらい大事で必要なことなのか、生きる意味なのかが、よく分かることとなります。もちろん共にいれば、傷だらけになる可能性もあります。それぞれの人で性格が違うし、やり方も違うし、好みも違います。だから人と出会うのは怖い、面倒だ、退屈でつまらない、などと思う人もいます。私たちの中にもそのような一面があるでしょう。また、中には嫌いな人もいて、「あのようなタイプの人とはあまり関わりたくない」と思う時もあります。逆に、「あの人は何をしているのか」と気になってしまい、その人に会いたくてたまらなくなる場合もあります。成熟した関わりを持つ人ならば、一人で時間を過ごすことを怖がりません。信者としては、“一人でいることは祈ることができること”です。祈ることができれば、いろいろな関わりを上手に保つことができるのではないかと思います。

今日の福音(ヨハネ 16・16 20)では、イエス様が「御父のところに行くので、しばらくするとあなたがたは私を見ることができなくなる。」とおっしゃいましたね。それまで全てをにかけてついて来た弟子たちは、この言葉にとまどいます。この方がいなくなったらどうなるのか、と不安になります。しかし、この言葉を黙想してみますと、次のようなことも一緒に考えられます。

私たちは、共に信仰の生活をしています。しかし、信仰の生活というものは一人でするものです。信仰の道は一人で歩むものです。ですから、私たちもいつかは別れなければなりません。その時にも心の揺れがないように、動揺しないようにするためには、共にいながらも自分が一人できちんと立てなければなりません。私たちがみんな一人できちんと立つことができれば、共同体もきれいに動けると思います。そのために、私たちは個人と共同体のバランスを求めなければならないのでしょう。そのバランスがとれないと、共に過ごせない危険や一人になれない危険が出てきてしまいます。

さあ皆様、一人の時間を寂しいと思い、その寂しさを作りたくなくて、テレビに目を向けたり、いろいろなことで一人の時間を避けようとしたりしていませんか。しかしそのようにしても結果は同じです。むしろもっと寂しさが大きくなるだけです。本来、私たちは寂しさを感じなければならない孤独な存在です。仕方がないことならば、積極的に受け入れなければなりません。それを受け入れられ

た時こそ、人間的な弱さである孤独感というものが逃げて行きます。しかし、何とかして避けようといろいろなことを求めるから、孤独の中で否定的な思いに陥ってしまい、解放されなくなるのだと思います。

皆様、一人の時間を楽しんでください。それは、自分のことをはっきり見つめるために必要なものです。自分のことが見られれば、隣の人、周りの人との関わりが見られます。その中で、自分はどのような位置にいて、何をすべきなのかが、はっきりしてきます。それなのに、そのような一人の時間をとりたくないと思ってしまういませんか。

皆様、今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。一人で祈れることは、恵みだと思います。しかしそれには条件があります。自分の意思がなければ絶対できないのです。時間をとって、膝づいて、頭を下げて、“何でしょうか”と聞く心があれば、共同体にも関わりが生じてきます。そのようなバランスがきちんととれれば、利己主義的な信仰生活とか、わがままな信仰生活になることを何とか避けられると思います。そういう意味で、個人の黙想も勧めているし、団体の黙想も勧めています。この二つがどちらも同じ線の上にあることをもう一回考えてみましょう。

信仰の道は共にするものですが、一人で始めて、一人で終わるものでもあります。1人になることを楽しめるぐらいのレベルになれば、いろいろなことが起こってもあまり揺るがずに、信仰の道を歩めるのではないかと思います。

最後に目にとまったのは、福音のこの箇所です。「あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。」(ヨハネ 16・20)です。もし皆様が、社会の生活やいろいろな関わりの中で、イエス様のために人間的に少し損になった気がするのならば、“よくやった”と考えてください。“勝った”と思ってください。これが、イエス様が私たちに教えてくださった論理です。いつも損にならないように社会的な計算をしながら、1プラス1は2になるのか3になるのか、というような考え方をしていれば、人間的には成功するかもしれませんが、成功の後には何も残りません。ただ虚無感だけです。エベレスト山の頂上まで登って、その後自殺をしてしまった登山家が結構いましたね。それがこの世の価値で動かされる結果です。それが成功の道ならば、イエス様を信じなくてもよいのではないかと思います。実際にはイエス様は、いつも負け犬のような生き方をされました。そのようなイエス様のみ心を推し量ることができるならば、私たちの生活、振る舞い、考え方をイエス様のみ心に合わせようと努力しなければなりません。それができなければ私たちが嘘のものになってしまいます。

皆様、負けてあげる余裕や力があれば、負けてあげましょう。そして、それが相手のためにも自分のためにも救いになったら、もっと積極的に負けてあげる面白さ、喜びを感じられるようにイエス様に願いましょう。

ありがとうございました。